

委員	意見	回答
東洋大学 教授 経済学 井上委員 総合政策 学科	2020年実施の国勢調査結果を踏まえ、人口動向の現状について確認・検証を深め、今期KPI実現に向けて着実な対応をお願いしたい。	2020年実施の国勢調査結果では、県下では本市のみ人口が18名ではありませんが増加しました。鯖江市の地理的特性など主な要因であると思いますが、転入転出者向けへのアンケート調査なども実施していますので、人口動向について検証を深めていきたいと考えております。
	p41 重点施策の「市民活躍」は「市民主役」とどう違うのか？ →p61からは「市民主役をさらに進める」ことが市民活躍のように読めるが、言葉を使い分けている意味はどこにあるのか、ご教示ください(市長さんの方針ということであれば、それでも結構です)	市民主役の取組みをさらに推し進めることで、1人でも多くの新たな担い手の掘り起こしがされ、すべての市民が活躍し、挑戦できるまちづくりが展開されることを描いており、現市長の特に注力して取り組む方針「みんな輝く市民活躍のまち」でもあります。
	p44、47、49、58、59 目標値の増減は現実に即している点は良い。ただ、KPIの性質上、目標値の増減が最終的にどう人口に結びつくのか意識しておく必要がある。	まち・ひと・しごと創生総合戦略は地方の人口減少を克服し、将来にわたって成長していくことを目指す計画でありますので、KPIの達成がどのように人口確保することに繋がっていくのかを常に意識することは重要と考えます。今後のKPIの進捗管理の中でも、意識の浸透を図ってまいります。
	p53 具体的な居場所のイメージはありますか？ハード面、ソフト面などご教示ください。	ソフト面では、従来から活動している鯖江市役所JK課の活動に加え、新年度よりSDGsを学び活動する場として「さばえSDGs部」を立ち上げる予定があります。ハード面では市民活動の拠点である「市民活動交流センター」や「夢みらい館さばえ」の積極的な活用を念頭においています。
p84 CO2排出量削減の進捗状況をどのように確認されるか(特に排出量の内訳や把握できる時期など)、ご教示ください。	国から示される計算式を用いて、統計データや企業からのデータを元に毎年の二酸化炭素排出量を把握する予定です。計算式は県も他市町も同様の計算式を活用しますが、鯖江市の人口や従業員数ごとの企業数などのデータを組み合わせ、鯖江市の二酸化炭素排出量を計算することを考えています。把握できる時期は現在のところ未定です。	

委員	意見	回答
福井工業大学地域連携研究推進センター センター長 川島委員長	P38 持続可能な開発目標 DXの推進の具体的な中身が、少し目標がわかるといいと思いました。	38ページの持続可能な開発目標(SDGs)の推進の記載につきましては、4つの基本目標を先導的・横断的に取り組む重点施策についての説明書きですので、先生ご指摘のとおり、具体的な内容等については記載できておりません。 具体的内容の記載場所は、74ページ以降の基本目標Ⅳ安心して快適に暮らせるまちの創造、基本施策1 デジタルファーストの推進のところになります。ただ、内容的には、KPIの見直しや、これまで取り組んでいた事業の整理が中心で、新たに追加記載できる事業が現在のところあまりないのが現状です。今後は、目標設定を含め具体的取り組みを示しつつ重要課題として取り組んでいかなければならないと考えております。
	P56 U・Iターン者創業支援事業 2022年は、コロナ感染が落ち着くのを待って、いよいよ首都圏からの地方移住が活発になると想像します。移住先を探している人たちにに向けた、適切な情報提供ができるといいですね。	市といたしましても、移住者向けの情報発信については大きな課題として位置付けており、来年度にはゼロ予算事業として、鯖江への移住を検討している方や鯖江に住んでいる方に「住んでみたい・住み続けたい」と思ってもらえるよう、鯖江での暮らしを身近に感じられる情報を市公式ホームページを活用して発信する試みを始めていきます。また、今後のシティプロモーションとしまして、「選ばれるまち」としての地域ブランド価値向上を目指すため、より効果的なシティプロモーションについて、市民等と共に検討するワークショップで新たな手法や施策を検討し、戦略を構築する事業を進めていく予定です。